5面ピラミッドの回転

PYR N0.10 KE03/MY15

私の姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光そして火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性の中に抱かれています。

　前回のレッスンでは、あなたの部屋の中の四面ピラミッド内におけるあなたの実存をどのように扱う、あるいは理解するかに関するエクササイズを与えられました。

　私たちは今、部屋を忘れ、四面ピラミッドの中で行うべき努力に集中しましょう。この類のエクササイズを引き続き行います。

　三面および五面ピラミッドを一緒に回転させるエクササイズなどを行います。

**レッスン PYR No.10 エクササイズ１**

　目を閉じて静かに座ります…心を騒がせるもの全てを解き放ちます…純白のあなた自身を見ます…あなたの形の境界を感じ、純白の五芒星のなかで守られているのを見いだします…この状態で、四面ピラミッドのなかにいる自分を見いだし、あなたは純白のサイドに面しています。右には赤のサイド、後ろはホワイトブルー、左はウルトラバイオレットのサイドです。あなたはこのピラミッドの底面に立っています。

　次に三面ピラミッドに存在を与え、あなたはその真ん中に立っていて、右側のホワイトピンクのサイドと左のホワイトブルーのサイドの間の角が正面にあります、そして後ろには金色のサイドがあります…同時にあなたは四面ピラミッドの各サイドからの色の輝きを見ることができます。難しいことではありません…

　さて、あなたは不動のまま、三面ピラミッドを右方向に回転させます…右に動いていくのを見ます、このピラミッドを回転させます…それはあたかもピラミッドの頂点から底面の中央に垂直軸があるかのようです。徐々にその角が時計回りに移動し、正面にあった角が赤の輝きの方に動いています。今、赤のサイドに面しており、ホワイトブルーのサイドへと移動しつつあります…

　今、ホワイトブルーの輝きに面しており、ウルトラバイオレットのサイドに移動しようとしています、ゆっくり、ゆっくりと移動し、今ウルトラバイオレット色の輝きに面しています、そして純白の輝きに移動しつつあり、今正面の純白のサイドに面しており、そこに留まります…

　再び先ほどの角が正面にあります…三面ピラミッドのホワイトピンクとホワイトブルーの角です…

　さて、五面ピラミッドに存在を与えます。そしてあなたの正面には三面ピラミッドと一致する角がありますが、その角度は異なります。それでは、三面ピラミッドを動かすことなく、五面ピラミッドを回転させますが、しかし正面の角度について混乱しないでください、なぜなら、五面ピラミッドの5つの角の全ての角度は同じで、色も同じです…

　それでは五面ピラミッドの正面の角を赤の輝きの方に時計回りに動かし始めます…そして今や正面にあった角が赤のサイドにどんどん近づいていあて、今赤のサイドに面しています…そしてあなたの後ろのホワイトブルーのサイドに移動しつつあります…

　今、ホワイトブルーの輝きに面し、ウルトラバイオレットのサイドに移動しつつあります…そして今、四面ピラミッドのウルトラバイオレットのサイドに面しており、さらに正面の純白のサイドの方に回転しています。そして今純白のサイドに面していて、元の位置に戻ってきました。そしてこれら2つのピラミッドの回転の結果として、あなたは一面ピラミッドを創造しました、しかしあなたは続けます…

　それでは、五面ピラミッドを動かすことなく、三面ピラミッドを回転させます…そして再び正面にある三面ピラミッドの角が赤のサイドへと移動します…今回は前より動きが速くなっています…赤のサイドに面し、今ホワイトブルーへと移動し、今ホワイトブルーに面し、そしてゆっくりとウルトラバイオレットへと移動し、今ウルトラバイオレットに面しています…そして純白のサイドへと移動し、今純白のサイドに面しています…

　あなたは全てのピラミッドの全ての色の輝きを同時に見ることができます；あなたはこの動きをあらゆる方向から観察しています…

　この努力の結果として、徐々に何であれ三面ピラミッドから提供されていることを達成出来るようになることを願います、そして勿論、達成できることとは4つのエレメントをある程度マスターすることです。終わります。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

このエクササイズは難しいのであなたにはたくさんの努力が必要です。とにかく、あなたの前にあったものの動きだけでなく、ピラミッド全体の動きを見ることができる能力を得る必要があります。ピラミッド全体という時、三面ピラミッドを回転させている時、一つの角の両側のホワイトピンクとホワイトブルーの輝きだけでなく、同時に後ろの金色の輝きも見る必要があります。この動きのあらゆる瞬間にこの動きを見ることが出来るべきです。

Ｑ：動きはあまり速くないということですか？

Ｋ：**初めはとてもゆっくりです。いいですか、この動きはまた現在のパーソナリティーの3つの状態を助けます。その意味は、肉体にある現在のパーソナリティーを構成する3つのセンター、不定形の諸体の形を再形成する助けになるということです。**

　なぜこの動きはゆっくりなのでしょうか？なぜなら、今のところその動きは反対方向だからです。あなたがたくさの努力をしない限りそれを止めることはできません、そしてその努力とはそれらのピラミッドを非常に速く回転させることではありません。なぜなら、それはあたかも非常に速く回転している何かをあたかも壊そうとしていることになります。スリップし、ブレーキがスリップし、多くの熱が生じ、そのパーソナリティーは何もすることができず、とても疲れてしまい、このエクササイズをする興味を失ってしまうでしょう。

　ですから、最初はとてもゆっくりと行います。そして徐々に加速されていきます。パーソナリティーが無知のステートにいる間は全ての動きは反対方向になっています。

Ｑ：時計回りは反対方向なのですか？

Ｋ：違います、反時計回りが間違った方向です。

Ｑ：それなら、なぜそれは反対方向だと言うのですか？

Ｋ：私はそれが間違った方向だとは言いません。現在のパーソナリティーが無知のステートにいる間は反時計回りなのです、そしてその動きを止め、それを時計回りの動きに変えようとしているのです。

Ｑ：実際、伝統的なダンスは皆反時計回りです。

Page3

K：知っています。それは彼らをその方向に何かが引っ張っていたのです。なぜなら、無知のなかにいる間はそれが彼らの動きだからです、反時計回りです。

Ｑ：何が反時計回りに動くそれらの伝統的ダンスを創造させるのですか？

Ｋ：なぜなら反時計回りに行くこと、それはその身体の動きだったからです。なぜなら、身体は無知の波動のなかに生きているからです。

Ｑ：それでは、5つの超感覚を達成する時には、カラマチアノ（＊ギリシャの伝統的ダンスと推測される）を時計回りに行うようになるのですね！！

Ｋ：全てとのつながりがあります。人間の状態の動きでさえも、それは勿論創造の元型の状態と同一です。

Ｑ：私たちは引き続き前を向いている必要がある、と言いました。しかし、私たちは前を向いて、ポイントがあるところを見る必要があります。ですから正面に何が起きているかをも同時に気づいているようにする、ということですか？

Ｋ：勿論です。**なぜなら、この努力をすることによって、同時に5つの真の感覚を活性化して、その結果全ての方向を見ることができるようにするのです。そして、五芒星に色を与え、そして三面および五面ピラミッドを回転させて円錐を創造する時には、もっと多くの努力が必要となるでしょう。**

　その努力とは、それを遠くから眺めるのではなく、あなたが立っている所から全ての方向を見ることが出来るようにすることです。そうすることによって、あなたが全ての方向にフォーカスするかのようになり、あなたは距離をおいて何かを目撃しています。このエクササイズの目的の一つは、徐々にあなたの状態のあらゆる所からのビジョンを活性化することです。

Ｑ：私たちがエクササイズをしていた時、私は自分が回転していたかのように思いました。

Ｋ：それはあなた自身が回転したように考えた努力のせいです。スーフィーはそれを行い、サイコノエティカル体を肉体から分離させようとする他のスクールでもそれが起きています。今でも多くのシステムでそれを行っています。

　ですから、気づきのレベルを高めるための鍵は、それらの助けです。それらをどのように使うか、三面ピラミッドが提供しているものをどのように達成するかです。Life、三面ピラミッドについて話している時、私たちはLifeについて話しているのです。物質と結びついているLife、それが三次元のこれらのシンボルが意味していることなのです。

　四面ピラミッドはどうでしょうか？この四面ピラミッドにはLifeがあるのでしょうか？どう思いますか？4つのエレメント、それらのエレメントはそのなかにLifeがなくても存在しえると思いますか？答えはノーです。ですから、これら全てのシンボルはLifeに関するものです。

　現在のパーソナリティーができる限り自然の本質と同調するのを助けるような質のエクササイズがしばしばあります。

　あなたが様々な**自然界の自然に囲まれた屋外にいて、特に水のエレメントの上に浮いているエクササイズは大きな助けになります。**

　以前のレッスンで、水のエレメントはサイキカル界における主要なエレメントである、と述べました。これは実在の波動を他の実在の波動とつなげ、そこでは現在のパーソナリティーはサイコノエティカル体、つまり現在のパーソナリティーの真の体を使っています。

　またこのエレメントなしでは、地のエレメントはいかなるボリュームも形も帯びることができない、と説明しました。このエレメントが必要であり、それゆえにそれが肉体において生じているのです。このエレメントなしでは肉体は「生きている」ことはできません。このエレメントがないと、肉体は分解してしまいます。

Q：私がこの諸宇宙について考えると本当に信じられない気持です、そこにある広大さを考えると。そして私がそれについて考えると、それ自体があまりにも広大なので、私のマインドは実際それを考えることすらできません。そして、それが絶対存在の黙想の一つの側面であり、同時に絶対存在は実際あらゆるもののなかに存在し、これこそが絶対存在であると言える特定のポイントはない、ということを深く考えます。

Page4

K：勿論、そのようなポイントなどありません。

Q：ですから、全てのステートにあるものは絶対存在と見なしているものの顕現であり、それを越えると、それが何であるかを考えるいかなる方法もありません。

K：全ての創造、この創造界の広大さ、それはいかなる理解をも超えていますが、しかしそれもまた「Lifeそれ自体」と比べると「無に等しい」ものです。ですから、これら全てを創造するものを私たちが理解することなど、一体いかにして可能だというのでしょうか？それは期待を遙かに超えています。

Q：私が明確にしたいことは、絶対存在はそれ自体がこの広大さのなかにあり、そしてこの広大さを越えたところにそれ以上のものがあり、私たちが「それ」についての気づきを持つことができるのは顕現しているこの世界のなかにおいてのみです。

K：実存（の諸世界）という現象があり、私たちはそれを理解しています。この現象を越えたステートについて、私たちはいかにしてそれを理解できるというのでしょうか、それを越えたものに関する説明、絶対存在について理解することなどできるでしょうか？実際、不可能です。

Q：ですから、私たちがテオーシス（＊神との再合一）に到達すると言う時、私はあたかもヘブンを下に引っ張り下ろすような気分になります。絶対存在が顕現しているこの広大な世界ですら私たちには理解できないのですから。

K：あなたはそのことを、転生は一回しかないと思っている人達に言うべきです。教えてあげなさい。いずれにしても、絶対存在はあらゆるものの原因であり、それはどんな人間の理解をも超えています。それは頭で考えられるものではありません。

しかし、人間が目にする全てのものの中には神がいるのです。私たちは実際、絶対存在の中で泳いでいるのです。私たちはそのなかで泳いでいるのです。

Q：エクササイズに関しての質問です。あなたは前にテープを使ってエクササイズをするのは良くないと言ったのを知っています。なぜなら、そうすると声に集中してしまうからです。しかし、時にはテープを使ってエクササイズをすると便利です。特に夏には。

K：いいですか、あなたにできることは紙に書かれているエクササイズをあなた自身の声でテープに録音し、それを使うことです。

Q：ピラミッドを本当にゆっくりと動かすのは良いことですか？

K：実際、そのとおりです。あまりに速く動かそうとする傾向がありますが、しかし、そうすると何も得られません。なぜなら、あなたはコントロールせず、それ自体で動くことになるからです。しかし実際には、あまりにも速く動かすと、それは反対方向に動いていることになります。

あなたが何かを非常に速く回転させると、あなたが見ているのは反対方向の速い動きの結果に過ぎません。

　しかし、完全に動いている時には、その動きは時計回りであり、反時計回りではありません。あなたはその動きの結果を体験することでしょう。後で反対方向への動きを見るという幻想を持つことはないでしょう。非常に速く時計回りに動かそうとすると、あなたが実際に視覚化するのは、あなたが実際に見るのは、反対方向への回転の結果なのです。車輪が非常に速く回転しているのを見ると、実際にあなたが見るものが反対方向の動きの結果であるのと同じです。

Q：それでは、エレブナにおいては、この回転の結果はそれ自体の回転にあるのではなく、ある気づきのレベルに到達することである、と言うことができますか？

K：違います。それは回転の方向を変えることへの努力です。無知のステートにいる間は、動きは反対方向になるのです。それは逆さまになっている「生命の木」でまさに生じていることです。

　何らかの能力を獲得しようとしている多くのシステムでは、彼らがどんな動きをしようとも、たとえ彼らがシンボルその他を書いても、それは反時計回りの方向のなかでしているのです。そしてそのようにすべきだと彼らは述べています。しかし、そうすることによって、各シンボルが示しているエレメンタルに同調することになるのです。システムの名前は言いません。あなた方自身がそれを知っていることでしょう。

Page5

Q：エクササイズのなかで、五芒星のなかで守られている自分自身を視覚化し、そして例えば前回のレッスンでは湖の上に浮いていますが、そのとき私たちはピラミッドのなかにいるのでしょうか？

K：そうです、ピラミッドに実体を与えます。

Q：それではピラミッドを視覚化するとき、私たちは地面にいるのではなく水の上に浮いているのですね？

K：そうです、**湖の上に浮いていて純白の五芒星のなかで守られている状態です。そしてまたピラミッドのなかにいるというもう一つの実体もそこにはあります。**ピラミッドのなかにいるという実体；それは正しいですか、間違っていますか？その実体は私たちのものだと思いますか？四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、どう思いますか？実際、それは私たちの実体なのです。

Q：14芒星もピラミッドになるのですか？

K：違います、ピラミッドは五面ピラミッドまでです；六面は実際にはピラミッドではなく、星です。私たちはこの星を使いますが、それを物質とつなげるために六面にすることはしません。

Q：初めから五芒星に色があるのは良くないのですか？

K：ノー、今は何であれあなたに与えられるものに対して努力をします。そして時が来た時にはそれに色を加えるのが簡単になるでしょう。

Q：それでは最終的に、かなり速く回転することが可能になり円錐ができると、白色になるのですか？なぜなら、全ての色は白色のなかにあるので。

K：待って見てみなさい。あなたが何かを回転させると、周囲の輝きはどうなりますか？周りの輝きは元のままにとどまると思いますか？それについて考えなさい。

Q：それは虹の色になるのですか？

K：虹の色は何色ですか？

Q：七色です。

K：7×7です。７だけではありません、7は基本的なものです。そしてそれぞれの基本には他の7つの色合いがあるので、49になります。そしてさらに、それら49はベーシックな7からの基本となり、それ以降もアプローチできる非常に多くの色合いがあります。

Q：それでは多くの色の色合いがあるのと同じように、多くの気づきがあるということですか？

K：そうです、色の色合いです。それが私の意味していることです。目で見てもそこには限界があります。**サイコノエティカル界の様々な色があり、またこの世界（＊3次元）の波動においても、肉眼では見えない色があります。**それは説明を越えているものです。**全てはより輝いており、全ての色はより輝いています。鈍い色はありません。**何であれ私たちが鈍いと見なしても、実際には輝いているのです。

EREVNA PYR N0.10/KE03/M15